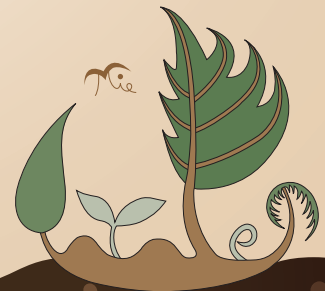


未来につなぐ 活動報告書 2016

Corporate Social Responsibility Report

ステキな三重を
未来の子供たちへ





ステキな三重を
未来の子供たちへ





はじめに

私たち三重トヨペットは2016年4月に創立60周年を迎えました。
ひとえにお力添えいただきました皆さまのおかげと、改めて深く感謝いたします。

これまで、私たちは「ステキな三重を、未来の子どもたちへ」を合言葉に、日頃支えていただいている地域社会、そして三重の未来のためにできる取り組みを、こつこつと地道に続けてまいりました。決して大きな貢献と言えるものではありませんが、今後も弊社が存在する限り、続けていくことをお約束します。

今回、創立60周年を節目とし、私たちの取り組みを“未来につなぐ活動報告書”として発刊させていただくことになりました。ぜひご一読いただければ幸いです。

目次 / INDEX

ページ

はじめに／目次 01・02

トップ・メッセージ(社長:川喜田 久) 03・04

60周年 取り組みの歴史 05

当社の取り組み [環境・福祉・安心・文化]

私たちの企業理念 06

[環境]への取り組み 07～10

[福祉]への取り組み 11・12

[安心]への取り組み 13

[文化]への取り組み

[その他]の取り組み 14

環境報告 15

コンクール・コンテスト報告 16

三重トヨペット会社概要 17・18



CSR REPORT 2016 TOP MESSAGE



私たち三重トヨペットは2016年4月に創立60周年を迎えました。
ひとえにお力添えいただきました皆さまのおかげと、改めて深く感謝いたします。

三重トヨペット 代表取締役社長

お客さまから「ありがとう」を
いただけるような社徳のある会社を目指して。

川喜田 久

自動車ディーラーの仕事はお客様のカーライフを総合的にサポートさせていただくこと。お客様にとって価値あるクルマをおすすめして、長く快適にお乗りいただくためにアフターケアをする。ひと言で申し上げればそういう仕事です。

そして、お客様にご満足いただけるよう、つねに最新の商品知識を身につけ、整備の技術を磨き、社員全員が日々たゆまぬ努力をしていくことです。しかしそれはある意味、自動車ディーラーとして当然のことだと思います。

私たち三重トヨペットは日頃支えていただいている地域社会、そして愛する三重の未来のためにどのような貢献ができるのか、お役に立てるのか。そこに企業としての価値があると考えています。

環・福・安・文を キーワードに社会貢献を

私たちが社会貢献として主に取り組んでいるテーマは4つあり、社内では「環・福・安・文」として浸透しています。

すなわち環境、福祉、安心・安全、文化です。詳細はそれぞれのページをご覧ください。ここでは取り組みの姿勢、考え方を簡単にお話しさせていただきたいと思います。

環境

自動車は20世紀最大の発明と言われます。移動、輸送、そして運転する楽しさ。実際、これほど世の中に貢献してきた発明品は少ないでしょう。今の時代、自動車がない生活は考えられません。しかし、社会に大きな貢献をすると同時に、負の側面があることは正直に認めなければなりません。

そのひとつが環境問題です。自動車は排気ガス、CO²を排出してきました。私たち自動車に関わる企業は、他の分野の企業以上に環境問題に力を入れる義務があるというのが私たちの姿勢です。



三重トヨペットでは環境に対して様々な活動を行っていますが、40年にわたって続けているのが「グリーンキャンペーン」です。スタートは1976年。まだ地球温暖化やエコロジーといった言葉もなかった時代に、CO₂対策として「緑を増やす」ことを始めました。以降、1年も欠かさず三重県各地に苗木を寄贈し、これまで4000本以上の木を育ててきました。現在は寄贈地の方々と一しょに植樹も行い、恒例のイベントとなっています。環境に対する取り組みは長期的な視点が欠かせません。1本の木が育ち、CO₂を吸収するまで何十年もかかります。三重の子どもたちのために、さらにはこれから生まれてくる未来の子どもたちのために、今を生きる大人たちが継続して取り組むことが重要だと考えますので今後も続けていきたいと思っています。

福祉

三重トヨペットでは、福祉車両の「ウェルキャブ」も販売しています。身体にハンディをお持ちの方のための特殊車両です。ハンディはおひとりおひとり違います。本当にその方に最適な車を選ぶお手伝いができるかが問われます。車両に対する知識はもちろん大切ですが、私たちはそれと同じくらい、ハンディをお持ちの方の気持ちを知ることが大切だと考え、一から学ぶことを始めました。車いすの方はどんな不安をお持ちなのか、杖をお使いの方をどうお助けすればよいのか。10年前から全社で取り組みを始め、現在、92名が介助専門士の資格を取得し、お客様とより深いコミュニケーションを取れるようになりました。店舗内の段差をなくす等の物理的なバリアフリーだけでなく、「心のバリアフリー」をこれからも大切にしていきます。

安心・安全

自動車には負の側面があると申し上げました。環境以外にもう一つ、それは交通事故です。自動車は使い方を間違えると凶器になります。納車時に安全な取り扱いを充分にご説明することはもちろん、ドライビングスクールを主催して運転テクニックの向上をお手伝いすることにも取り組んでいます。中でも大切なのは子どもたちを守ること。ご高齢の方と並んで子どもたちの事故が大きな割合を占めます。三重トヨペットでは、毎年三重県下の子どもたちに交通安全の絵本をお配りしています。小さな頃から交通ルールを覚えて、



交通安全を意識してほしいとの思いからです。この取り組みも1969年より半世紀近く続けている長期的な活動です。また日々の交通問題だけではなく、万一の災害時にも地域に貢献できないかと始めたのが保存水の確保です。2007年から、全18店舗に各100本常備しています。東日本大震災の際は、すぐ全店舗の保存水を集め被災地にお送りしました。

文化

自動車のディーラーで文化をテーマに社会貢献活動をするのはとても珍しいと思います。目に見えるわかりやすい貢献も大切ですが、地域の皆様の暮らし、人生をより豊かにする、そんな企業があっていいのではないのでしょうか。いまでも全国のどこかで毎年展覧会が行われる私の祖父である川喜田半泥子の作品を集めた石水博物館のチケットをお客様にお配りしたり、津の街音楽祭の後援、2014年にリニューアルオープンした三重県総合博物館「MieMu」の敷地に落葉広葉樹のコナラを寄贈するなど三重県の文化をより発展させるサポートにも注力しています。

社徳のある会社

企業はただビジネスをして利益を上げればよいというものではありません。地域社会から信頼される存在になること。「あの人は人徳がある」というように企業にも「社徳」があります。三重トヨペットが目指すところは、企業活動すべてを包括して「社徳」のある会社と言われることです。

企業とは「人」です。社員とその家族が幸せでなければ、お客様に気持ちのいいご挨拶もできないでしょう。社員一人ひとりが人として成長し、地域のお役に立ち、お客様に「ありがとう」をいただけるような会社になろう。私はいつも、社員にそう呼びかけています。



三重トヨペット

60周年 取り組みの歴史

1956年（昭和31年）	津市下部田に会社創立	
1961年（昭和36年）	本社を津市上井財町（現在地）に移転	
1962年（昭和37年）	本社新社屋 竣工	
1969年（昭和44年）	交通安全絵本 配布開始（以降、毎年参加）	
1976年（昭和51年）	第1回ふれあいグリーンキャンペーンを開催（以降、毎年開催）	
1977年（昭和52年）	日本カモシカセンターに野生パトロールカーを寄贈 （以降閉園の2006年まで5年ごとに1台のパトロールカーを寄贈）	
1983年（昭和58年）	QC サークル活動導入	
1992年（平成4年）	トヨタ自動車、地球環境憲章を発表	
1995年（平成7年）	三重県知事より緑化推進の表彰状を受賞	
1996年（平成8年）	本社新社屋 竣工 三重県赤十字センターにカルディナバンを寄贈	
1997年（平成9年）	トヨタ自動車、量産ハイブリッド車プリウスを発表	
2000年（平成12年）	国土緑化推進機構より国土緑化推進功労賞を受賞	
2001年（平成13年）	ISO14001 認証取得（3店舗）（以降毎年定期審査・3年に一度更新審査）	
2003年（平成15年）	2代目プリウス発売	
2004年（平成16年）	ISO14001 全店舗認証取得（本社及び全店舗）（以降毎年定期審査・3年に一度更新審査） 三重県南部集中豪雨被災地に社員ボランティア派遣	
2006年（平成18年）	松阪塚本店 ウェルキャブステーション開設 第1期介助専門士養成講習実施 全店舗に介助専門士を配置 全店舗に車椅子設置	
2007年（平成19年）	鈴鹿神戸店 ウェルキャブステーション開設 第2期介助専門士養成講習実施 海のバリアフリーまつり サポートスタッフとして参加（以降、毎年参加） 全国障がい者ゴルフ大会 サポートスタッフとして参加（以降、毎年参加） 第3期介助専門士養成講習実施 第4期介助専門士養成講習実施	
2008年（平成20年）	セーフティーキャンペーン開始（以降、全店舗に常時備蓄水を保存） エコキャップ運動 スタート	
2009年（平成21年）	トヨタ原体験プログラム開始（以降、毎年開催）	
2011年（平成23年）	アクアソーシャルフェスへの参加開始（環境保全活動）（以降、毎年開催） 東日本大震災被災地へ支援金、支援物資（備蓄水・食料・衣料・日用品等）送付 介助専門士フォローアップ研修実施	
2012年（平成24年）	AED全店舗 設置	
2013年（平成25年）	使用済みインクカートリッジ回収 開始 第1回 ドライビングレッスン 開催	
2014年（平成26年）	第40回 ふれあいグリーンキャンペーン	
2015年（平成27年）	補修用塗料水性化（亀山BPセンター） 第2回 ドライビングレッスン 開催 津垂水本店ウェルキャブステーション開設	

60th
Anniversary



三重トヨペットの 社会貢献活動を支える4本柱

大地からフクッと
土が盛り上がって、



地域に根ざし、地域に信頼される、社徳のある会社を目指して

1 環境

三重トヨペットは自動車産業に関わる企業の一員として、1976年より毎年続けている緑化活動“ふれあいグリーンキャンペーン”をはじめ、ISO14001の全店舗認証取得、清掃活動、リサイクルの推進など環境活動に積極的に参加しています。

2 福祉

三重トヨペットはどなたにも優しいお店を目指し、2006年より全国自動車ディーラー初となる介助専門士を全店舗に配置。各店舗を巡回して行う“ウェルキャブフェア”では、地域と密着し、福祉バザーを開催しています。

3 安心

三重トヨペットはいざという時に地域の皆さまのお役に立てば…との願いを込めて、県内全店舗に、保存水の備蓄・AEDの設置など万が一に備えています。また、交通安全に対する意識を高める取り組みを行っています。

4 文化

三重トヨペットは文化をテーマに社会貢献を行っています。目に見える分かりやすい取り組みも大切ですが、文化を通して地域の皆さまの暮らし・人生をより豊かにする、そんな企業を目指しています。

企業理念

- ・豊かで安全な車社会の発展に貢献する
- ・お客様に喜びと感動を提供する
- ・環境にやさしい企業を目指す
- ・地域社会から信頼される健全な企業を目指す
- ・人を育て社員と家族の夢と幸せを実現する



[環境]への取り組み



グリーンキャンペーン

私たちは、緑と人、人と人とのふれあいのある豊かな街づくりを目指し、1976年から毎年、三重県への苗木の贈呈と従業員による緑の募金活動「トヨペットふれあいグリーンキャンペーン」を展開しています。昨年で40年目を迎え、県内に植樹した苗木の累計本数は4069本になりました。

三重県の豊かな自然を未来に繋ぐことが私たちの願い。「ステキな三重を、未来の子供たちへ」を合言葉に、今後も緑化活動を継続し、地域の皆さまと一緒に歩んでいけたらと思います。



第40回 三重トヨペット ふれあいグリーンキャンペーン

【期間：2015年4月～2016年3月】

中日新聞様立会いのもと、石垣副知事(三重県)に山桜50本、ソメイヨシノ25本の苗木とお客様・社員による「緑の募金」を贈呈しました。式典終了後に当社の社員とその家族・友人68名が植樹に参加しました。

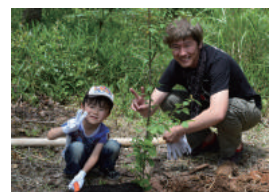


- 2015年5月24日(日)開催 ●主催：三重トヨペット株式会社・トヨタ自動車株式会社
- 協賛：国土緑化推進機構 ●寄贈先：三重県 ●会場：鈴鹿青少年の森 ●寄贈物：山桜50本・ソメイヨシノ25本

「5歳の息子と」

車両事業部／阿野田 基

5歳の息子と一緒に、初めて参加しました。「木を植える」という初めての体験を笑顔で楽しむ息子が頼もしく感じました。植樹から約5ヵ月後、植樹場所の公園を再び息子と訪れると、今度は「木の成長」を喜ぶ息子の姿がありました。また参加したいです。



山と海をつなぐ植樹祭

県民参加の植樹祭である『山と海をつなぐ植樹祭』が開催されました。

当社の取り組みである「ふれあいグリーンキャンペーン」の一環として、開催場所や各区に植えられる桜の木の一部を協賛させていただきました。

- 2016年1月24日(日)開催
- 会場：南伊勢町小方竈 さくら保育園前グランド敷地内
- 主催：南伊勢町・公益社団法人三重県緑化推進協会・三重県
- 後援：一般財団法人伊勢志摩国立公園協会 ●協賛：三重トヨペット株式会社

2000年 国土緑化推進機構より
「緑化特別功労賞」を受賞



きのこが顔を出し、



ISO14001

私たちの環境理念は「21世紀、環境 にやさしいカーディーラーをめざして環境マネジメントを確立し、継続的な環境への保全、改善に努めること」です。

2001年3月、津垂水本店、津栗真店、リクルマ津垂水本店の3店舗と統括する本社が、環境に配慮した企業に与えられるISO14001を取得。



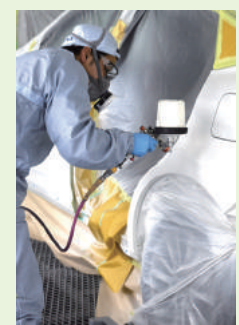
2004年3月には、ISOマルチサイト(本社及び全店舗)を取得しました。さらに資源として再利用できるよう、ゴミの分別収集も徹底しています。

認証取得に必要な内容は、自動車を取り巻く環境側面のなかで、特に環境への影響の大きい廃オイル、廃LLC(不凍液)、使用済み自動車の処理を法規制に従い的確に処理をしていくというものです。その手順の確立、訓練、教育の徹底において処理能力の向上をめざしたプロセスを重点的に審査を受け、合格しました。取得後は毎年、財団法人日本自動車研究所の監査を受けると共に、3年に1度はISOの規格を保持できているのか、更新審査を受けています。



補修用塗料100%水性化 (亀山BPセンター)

私たちは2015年11月、環境への取り組みの一つとして、当社の钣金塗装工場である亀山BPセンターにて予定より検討していた補修用塗料の100%水性化を実現しました。水性塗料は周辺環境への影響も少なく、かつ作業者の安全にも繋がることから、「環境にこだわる当社だからこそ、やっぴいこう!」と現場スタッフから声が上がって導入に至りました。



花いっぱい運動

たくさんのお客様に美しい花をご覧いただきたいという思いを込めて全店舗で「花いっぱい運動」を展開しています。この運動を通して自然とふれあい、潤いのある職場づくりをしています。

各店舗から選出された2名のフラワー委員を中心に、花を苗から育てて、咲かせることをはじめ、毎年6月と10月に苗の植え替えを行っています。





[環境]への取り組み



アクアソーシャルフェス

アクアソーシャルフェスはトヨタのハイブリッド車「アクア」のキャンペーンとして2012年に始まり、一般参加型の環境保全活動を全国で展開しています。当社は初回より毎年参加しています。



アクアソーシャルフェス2015 in 松阪松名瀬海岸 ～ラムサール条約登録を目指して～

会場場所となった松名瀬海岸は、伊勢湾最大級の干潟を有しその干潟は海浜植物や水生生物、鳥類などにより豊かな生態系を築いています。しかし近年、ゴミの不法投棄や漂着ゴミにより、水環境が悪化し、植生の生態系が脅かされています。今年で4年目となるアクアソーシャルフェスでは、昨年に引き続き松名瀬干潟の貴重な生態系を守るため、2回にわたり清掃活動と環境学習を行いました。



第1回、2回合わせ45リットルのゴミ袋約120個分のゴミが回収されました。昨年に引き続いての参加者は「みるみ

るゴミが減っていった、最後のほうは見つけるのにも一苦労だった。このきれいな状態を維持できるようにしたい」と海岸の美化を喜んでいました。

「アクアソーシャルフェス2015 in 松名瀬海岸に参加して」CSR推進室／加藤 優

三重県で開催されるこの活動は海岸清掃が主になっています。今回は松名瀬海岸での清掃活動でしたが、この海岸が伊勢湾最大級の干潟であり、豊かな生態系が築かれていることを初めて知りました。これから出来る限り参加し、この干潟がいつまでも続くことを祈っています。



地域清掃活動

私たちは、地域社会への貢献と環境保全のため、毎週土曜日の朝、店舗周辺の地域において、清掃活動を行っています。

緑化推進活動であるグリーンキャンペーンを長年続けているうちに環境を意識した社風がごく自然に根付いてきました。

生まれ育ったこの三重の美しい環境を保つため「私たちにできることは何か」そう考えて、店舗周辺の清掃活動を行うことになりました。当社が創立40周年を迎えた1996年から続けてきていますが、近隣の方から感謝のお電話やお葉書をいただくこともあり、私たちも嬉しく思っています。





エコキャップ運動・使用済み インクカートリッジリサイクル

エコキャップ運動

私たちは 2009 年より、エコキャップ運動に参加しています。この取り組みはペットボトルのキャップを分別回収し、再資源化を促進することにより CO² 発生抑制に寄与できると同時にキャップの売却益で世界の子供たちにワクチンを届けるという運動です。お客様、従業員によって集められたエコキャップをリサイクル事業者に送り、リサイクル事業者がキャップの売却益を日本委員会 (JCV) に寄付しています。これまでに削減された CO² の量は約 6,762 kg、ワクチンは 1,073 人分、キャップの収集数は 890,601 個になりました。(2016.3.31 現在)



使用済みインクカートリッジ

2013 年からは使用済みインクカートリッジの回収も始めました。エコキャップ運動と同様にリサイクル事業者を通して、インクカートリッジ 1 個につき 10 円の売却益が環境団体や福祉団体に寄付されています。



エンジニアウェア リサイクル

資源の循環型社会への対応として、当社で使用後のエンジニアウェアを回収し、リサイクルに繋げています。

回収したエンジニアウェアは特定指定業者の特殊工場で半毛再生化され、カーペットや自動車内装材などの新たな製品に生まれ変わります。



携帯電話リサイクル

環境を保護することを目的とし、貴重な資源を再利用するためにお客様の不要となった携帯電話機・充電器をブランド、メーカー問わず、リサイクルを行っています。

また、紙資源を有効に再利用していくことを目的に、携帯電話に同梱されている取扱い説明書のリサイクルも行っています。



モバイルリサイクルネットワーク
携帯電話・PHSのリサイクルにご協力ください。

社用車のハイブリッド化

私たちは環境を保護することを目的として、社用車には PHV (プラグインハイブリッド車) やプリウス、アクアなどのハイブリッドカーを多く使用しています。



[福祉]への取り組み

介助専門士

介助専門士とは

お体に不自由をお持ちの方やお年寄りの方などあらゆる方の立場にたってお手伝いをする介助の専門者が介助専門士です。

2006年「どなたにもやさしくありたい」そんなお店づくりを目指し、三重トヨペットは第一歩を踏み出しました。それが介助専門士の全店舗展開です。



桑名江場店
増澤 英則



桑名大山田店
山本 雄悟



員弁東員店
岡本 秀敏



四日市羽津店
高橋 恵美



四日市生桑店
草川 寿史



四日市新正店
市川 俊英



鈴鹿神戸店
梅深 光彦



龍山インター店
柴田 和範



津栗真店
山中 康司



津垂水本店
高野 博之



一志日置店
田邊 純



上野城北店
北川 公代



名張黒田店
山下 卓志



松阪塚本店
野浪 郁



伊勢小俣店
中川 雅司



志摩鵜方店
柴原 崇



尾鷲店
濱田 亜津子



レクサス四日市
中尾 広治

ウェルキャブステーション

ウェルキャブステーションとはトヨタ自動車の認定を受けた販売店店舗の名称で、専門の知識を備えた“ウェルキャブコンサルタント”が常駐し、お客様のご要望をお聞きして最適なお車をご提案させていただいております。また、いつでもウェルキャブを体感していただけるように展示車を常設しております。

三重トヨペットウェルキャブステーションは県内に鈴鹿神戸店と津垂水本店と松阪塚本店の3店舗ございます。ウェルキャブについてのご相談だけでなく、安心してご来店いただけますよう多目的トイレも備えておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

全店舗にて車椅子をご用意しています。



ウェルキャブステーション 3 店



鈴鹿神戸店

〒513-0801
鈴鹿市神戸地子町300-1
TEL : 059-382-3211



津垂水本店

〒514-0806
津市上弁財町4番1号
TEL : 059-222-7151



松阪塚本店

〒515-0811
松阪市塚本町 78-1
TEL : 0598-51-2020

※全店舗におもいやり駐車場あります。



ふれあいウェルキャブフェア

私たちは2012年よりトヨタの福祉車両“ウェルキャブ”を、より多くの方に知っていただくことを目的とし、『ふれあいウェルキャブフェア』を開催しています。

また三重県社会福祉協議会と連携して、開催店舗周辺の小規模福祉施設の方々の手作り品を販売するバザーも同時開催しています。年に6回～8回各店舗を巡回しています。

ウェルキャブとは

「全ての方に移動する自由を」のコンセプトを基に障害を持つ方や高齢の方、すべての人の快適でステキな暮らしをサポートすることを目指してトヨタが開発した福祉車両。



※写真：助手席リフト
アップシート車（ポルテ）



海のバリアフリーまつり／ザ・チャレンジドゴルフトーナメント

私たちは例年、社会福祉活動の一環として、「海のバリアフリーまつり」と「ザ・チャレンジドゴルフトーナメント」にサポートスタッフとして参加しています。昨年は一般社員の他に、新入社員が心のバリアフリーを学ぶ研修として参加しました。

※心のバリアフリーとは…すべての方に対して心を配ること。

海のバリアフリーまつり

【期間：2015年9月12日（土）13日（日）】

このイベントは小型ヨットやカヤックなどのマリンスポーツを通して、障がい者、健常者がふれあい協力し合えることを目指しています。

- 会場：マリーナ河芸
- 運営：NPO 法人海の達人

ザ・チャレンジドゴルフトーナメント

【期間：2015年11月2日（月）3日（火）】

この大会は、視覚・聴覚、肢体（上肢・下肢・内部）に障がいのある選手の方々が、全国から集まり、熱戦を繰り広げます。

- 会場：津カントリー倶楽部
- 主催：NPO法人日本ザ・チャレンジドゴルフ協会
- 後援：厚生労働省、文部科学省、日本プロゴルフ協会 他

「相手の気持ちになって考えるということ」 名張黒田店／竹田 翔伍（サービスエンジニア）

来場者の方がカヤックに乗られるのをお手伝いさせていただきました。中には足が不自由な方がみえて、どのようにサポートするのが一番良いのかを考えたり、細かい心配りがとても大事だと感じました。参加して相手の気持ちになって考えるということ意識するようになりました。



「一方通行ではなく互いに支えあうもの」 鈴鹿神戸店／半根 茅（店舗スタッフ）

普段は手話で会話をされている選手の方がみえて、私たちに分かるように声を出して大きな口で話しかけてくださり、とても嬉しかったです。サポートするということは、決して一方通行ではなく互いに支えあうものなんだと感じました。





[安心]への取り組み



飲料水の備蓄(セーフティキャンペーン)

地震などの自然災害が発生した時、真っ先に困るのは『水』。そんないざという時に地域の皆さまのお役に立てれば…との願いを込めて、2008年より、飲料水(ミネラルウォーター1.5Lペットボトル)を県内18店舗100本ずつ合計1800本備蓄しています。

2011年東日本大震災の被災地で、また同年9月台風12号で被害を受けた三重県熊野市で、この備蓄水を役立てていただきました。また同時に“災害対策BOOK”の配布も行っています。



社用車ドライブレコーダーの設置

私たちは社会の交通安全に対する意識を高めるために、ドライブレコーダーの設置をお勧めしています。

社内においては、社用車及びお客様への代車等への設置、また社員が通勤で使用する車への設置も推奨し、社員全員で交通安全に対する意識を高めています。

子供110番

幼児・児童が安心して登下校できるよう、何かあったときに助けを求めることができる民間協力の拠点「子ども110番の家」の活動に当社も参加しています。私たちはいつでも頼れる場所を目指して活動を続けています。

ドライビングレッスン(交通安全教室)

私たちは交通安全への取り組みとして、車の運転が怖い方やドライブをより楽しみたい方を対象にドライビングレッスンを行っています。

前年に引き続き、2015年10月に開催した第2回「三重トヨペットドライビングレッスン」には公募の中から抽選で、同伴者を含めて15名の方に参加していただきました。



AED 設置

万が一の場合に備え、また地域の皆さまのお役に立てよう全店舗にAEDを設置し、使用方法についての訓練も受けています。



交通安全絵本の配布

県内の保育所・幼稚園に「交通安全の紙芝居」を、新入園児に「交通安全紙しばい」を配布しています。子供たちが交通ルールを知るきっかけになり、交通事故防止のお役に立てればと1969年より県内トヨタ販売店の方々とともに続けてきた取り組みです。



[文化]への取り組み



石水博物館 賛助会員

社長川喜田久の祖父である川喜田半泥子(1878-1963)が創設者である石水博物館には、半泥子と関わりがあった美術品や交流した作家たちの作品、半泥子自身の作品などが展示されています。

半泥子の地域振興への意志に共感し、私たちは賛助会員として、当博物館を支援しています。また数に限りはありませんが、ご希望のお客様にはチケットをお渡ししお楽しみいただいています。



MieMu 三重県総合博物館 企業パートナーシップ会員

私たちは三重県総合博物館の企業パートナーシップ会員として、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の保全、新たな三重県の文化づくりを応援しています。

また、2014年のリニューアルオープンの際には敷地にコナラの木を寄贈しました。



[その他]の取り組み

原体験・職場体験の受け入れ

トヨタ原体験プログラムへの参加

私たちが子どもの頃に実体験をした記憶は「原体験」として、心に残っていますが、今の子どもたちには、そのような場面は、決して多くはありません。そこで、私たちは「自動車会社として子どもたちにできること」として誰もが知っている「クルマ」を通じて子どもたちに様々な体験をしてもらう「トヨタ原体験プログラム」という活動を行っています。

私たちは2011年より毎年、県内トヨタ販売店の方々とともにナビゲーターとして授業に参加しています。

職場体験受け入れ

私たちは毎年、本社や県内各店舗にて中高生の職場体験の受け入れを行っています。

受け入れの際にはまずは学生の皆さんの安全を第一に考え、職場体験の目的である“人との接し方や社会生活における規範を学ぶこと”を念頭に置き受け入れを実施しております。

学生の皆さんは三重トヨペットでの数日間の職場体験で、働くことの楽しさや厳しさなどを体感し、将来の職業に対する理解を深めます。それと同時に私たちは学生の皆さんから伝えることの難しさを学ばせていただいています。

和(なごみ)プロジェクト

“和”の心を大切にしたい、気持ち穏やかな落ち着いたお店作りをしていくために、女性視点を取り入れ、時にはお客様の力をお借りし、社員全員でお店作り・人作りを考える和プロジェクトを行っています。

伊勢志摩サミット

私たちは2016年5月開催の伊勢志摩サミットへ向け、2015年12月より開催終了までの期間、“三重県民”の一員として、愛する三重県を盛り上げるべく、全社で応援事業に参加しています。



環境報告

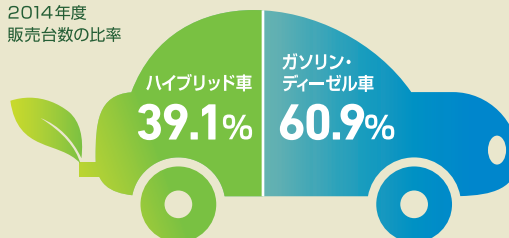
環境保全のためにしている取り組み報告

2014年度 ハイブリッド車販売台数 2,145台

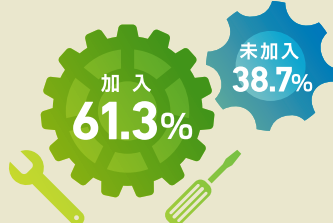


新車販売全体の約4割を占めるハイブリッド車の販売。環境に良い低燃費、低排出ガス車の販売推進をこれからも継続していきます。

2014年度
販売台数の比率



2014年度 スマイルパスポート 加入率



大切なお客様のお車のメンテナンス

私たち三重トヨペットではお客様のお乗りいただく大切なお車のメンテナンスをサポートする「スマイルパスポート※」を販売させていただいています。
2014年度は全販売台数のうち61.3%のご加入をいただき、多くのお客様にお勧めさせて頂く事が出来ました。



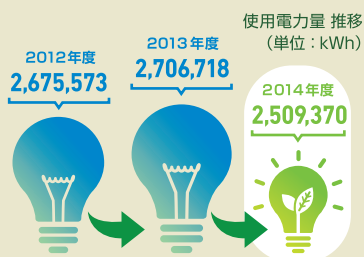
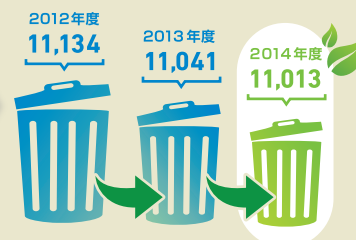
※スマイルパスポートとは新車購入から3年間のメンテナンスをバックしたメニューです。

産業廃棄物の適正処理を考えています



私たち三重トヨペットではISO14001を全店舗マルチで取得しております。環境保全に対しても社員全員が常に考えながら省資源化、分別、リサイクル推進、又、廃棄物の削減、汚染予防に努めております。「ステキな三重を未来の子供たちへ」を合言葉に今後も継続して環境活動がんばっていきます。

産業処理費用 推移 (単位: 千円)



省電力化を考えます

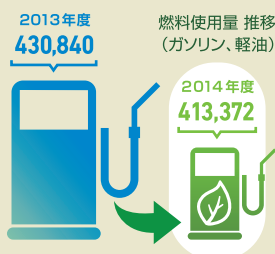
全店舗照明器具のLED化を行ない電力使用量を抑える事が出来ました。また、夏はクールビズを導入、全社員でこまめな節電に心がけています。使用電力量も2014年度は前年比92.7%になり成果が見られました。今後も継続して省エネルギー化に努力していきます。



燃料使用量



当社において使用したガソリン、軽油などの燃料を集計しています。社用車、営業車などでの使用が主になりますが、近年省燃費車が増えている為使用量が抑えられている事が目に見えてはっきり分かります。環境車両などをこれからも使用しながら燃料使用量を抑えていきたいと考えます。※2014年度 燃料使用量 前年比 95.9%



CO² 排出量 (t-CO²)



CO² 排出量

電力使用量を全社照明 LED化、また節電など省エネ対策の成果が「CO²排出量」にて確実に削減されている事が確認できました。また社用車のハイブリット化によるCO²排出量も削減されています。今後も省エネに貢献できるよう取り組んでいきます。





サービス技術コンクール 査定士技能コンテスト



サービス技術コンクール

第32回 全国トヨペット サービス技術コンクール 中部地区大会

2015年12月6日(日)7日(月)中部地区のトヨペット店の8社より各社2名の選手が出場し、サービスエンジニアの技術力、応対力向上とお客様の期待に応えるサービスを提供するために技術を競い合う大会が行われました。当社からは津垂水本店の木平洋行と松阪塚本店の中西健太が代表として出場しました。

結果は3位入賞。目標にしていた全国大会出場には惜しくも届きませんでした。今後もこの大会のスローガンである「磨いた技術に真心(こころ)込めて」を胸にお客様のご期待にお応えできるよう、エンジニア一人ひとりが技術力向上を目指します。



査定士技能コンテスト

2015年11月6日(金)津市内の会場にて『第17回三重県中古自動車査定士技能コンテスト』が開催され、県内ディーラー18社より32名が出場し、当社からも営業スタッフが出場しました。査定士の技術向上を目的として2年に1度開催されるこの大会。2台の車を査定し、その正確性を競う実技競技と学科競技の合計点で入賞者が決定します。

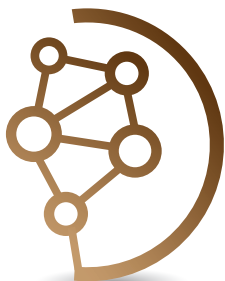
結果は桑名大山田店の山口寛樹が、最優秀査定士賞。津栗真店の山中康司が優良査定士賞に輝き、最優秀査定士賞の山口は全国大会への切符を手に入れました。

お客様が大切に乘られてきたお車を、正確に査定させていただくことも営業スタッフの仕事です。これからも、技術力の向上を目指し、切磋琢磨していきます。



※中古自動車査定士(ちゅうこじどうしゃさていし)とは

日本国内における、中古自動車の価格査定を行うための民間資格で、一般財団法人日本自動車査定協会が実施する「中古自動車査定士技能検定」に合格した者のことです。



県内全域に及ぶ、安心のネットワーク

三重トヨペット 会社概要



本社／津垂水本店

設立：昭和31年4月

資本金：6,000万円

売上高：売上高 251億円〔平成28年3月期 実績〕

従業員数：429名(男性355名・女性74名)〔平成28年3月末 現在〕

事業内容：トヨペット店が取り扱うトヨタの新車販売
レクサス車の販売
各種 U-Car(中古車)の販売及び買取
自動車の車検・点検・メンテナンス及び钣金・塗装
自動車のカスタマイズ等 各種カー用品の販売
各種保険・クレジット関連の販売
(自動車保険、傷害保険、生命保険、JAF、トヨタTS3カード 他)
情報通信機器の販売(au携帯電話 他)

リニューアル店舗

2016年2月・3月下記店舗がリニューアルしました。



桑名江場店

〒511-0836
桑名市江場600-1
TEL：0594-21-2411



四日市新正店

〒510-0064
四日市市新正2丁目13番18号
TEL：059-353-3146



尾鷲店

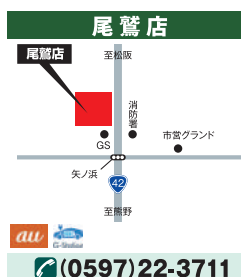
〒519-3640
尾鷲市桂ヶ丘1330番地
TEL：0597-22-3711



そして、その木で育った鳥も成長して
元気に巣立って行きましたとさ！

県内店舗一覧

三重トヨペットは、
お客様のカーライフを
県内全域に及ぶ安心のネットワークで
トータルサポートいたします。





三重トヨペット株式会社

本社 / 津市上弁財町4番1号

☎ 059 (227) 7171 (代表)

<http://www.mietoyopet.co.jp>



発行：2016年4月
発行部署：CSR推進室